

着物と私(2)

日本の魅力

津田 知子



「着物の魅力とは何か？」と聞かれて皆さんはどう答えますか？伝統的であること…でしょうか？きっと言葉に詰まる人もいるでしょう。私も、以前はその中の一人でした。

私が着物の着付けを習い始めたのは、3年次生の6月のことです。私は以前から、外国の方と話をする中で、自分の国のことを全然知らないということを実感しており、自分で自信を持って紹介できる日本文化を身に付けたいと考えていました。そんなとき、本学の「京都文化論」の授業で着物の講演がありました。それまでは全く知らなかった着物の世界を少し覗くことができ、「私も学んでみたい」と思いました。現在も、そのときの講師の先生の着付け教室に通っています。

私が思う着物の魅力は沢山あるのですが、今回は二つに絞って書きたいと思います。

一つ目は、着物は大切にすれば何世代にも渡って着続けることができるということです。私は着付けを習い始めてから、初めて実家に眠っている着物が沢山あることを知り、驚きました。それまでは、家族の誰かが着物を着ている姿を見たことがなかったので、着物があるという事実を知らなかったのです。おそらく、私のような人は沢山いるはずなので、皆さんも一度聞いてみてください。こうした着物を利用すれば気軽に始めることができますし、昔着ていた着物を私が着ることで、家族が喜んでくれます。私もいつか自分に仕立ててもらった着物を、子供や孫に着せてあげたいなと思っています。

二つ目は、柄や色の美しさです。普段慣れ親んでいる洋服にはないものが多いので、見ていただけで楽しくなります。洋服だと避けてしまいがちな大胆な色や柄も、不思議と着物だと違和感がなく、素敵に着こなせるのです。私が素敵だと



思うものはアンティーク着物と呼ばれる昔のものが多いのですが、大正～昭和初期のこの分野における日本の技術は、外国からも高い評価を受けていたほど素晴らしいものだったそうです。現在、ファッションというとヨーロッパのイメージを抱く人が多いと思いますが、日本にも、着物という他の国に負けないファッションがあるのです。このことは、本学の図書館に外国語で着物について書かれた本がたくさんあることからわかります。

以上のことを考えると、外国の方の中にも着物を素敵だと思う人はいるはずです。実際、着物で歩いていると、「一緒に写真を撮りたい」と声をかけられることがあります。

しかし、先日図書館で行われたフォーラムの発表の中で、「日本人自身も着物をあまり着ることはないと思っている」と留学生の方がおっしゃっていて、日本人も着物について詳しくないというイメージが伝わっていると感じました。外国語大学で学ぶ私達こそ、着物や自分の国の文化の魅力をもっと世界に伝えていくべきではないでしょうか。

つだ ともこ (英米語学科4年次生)